

平成26年度 社会福祉法人 富門華会 事業報告書

I. 法人の現況

1. 平成26年度の活動状況総括

(1) 事業経過及びその成果

富門華寮、2か所のグループホーム、第二富門華寮といった障がい者事業所、ケアハウスサックル並びにデイサービスセンターサックル、高齢者グループホームさかえの高齢者事業所は共に大きな事故もなく事業を行ない、利用者も安心・安全な中で施設を利用し生活する事ができた。ただ富門華寮では3名、第二富門華寮では1名、ケアハウスサックルでは2名の利用者が病気などの理由により亡くなられたことはそれぞれの事業所にとって大きなでき事で残念なことであったのは言うまでもない。

「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」に変わって二年目を迎え、法令や指定基準等に基づいた適正な運営を目指し諸事項、各項目において点検を行ないながら事業を進めてきたことについては、まだまだ不備な点はあるものの、一定の成果は得ることができた。

職員個々並びに組織全体の資質向上を図る努力は施設にとって終わりのない課題であるが、研修参加や会議等の積み重ね等を通じ、繰り返し行なってきたところである。利用者権利擁護のための職員の人権・倫理意識の向上も同様に関連する各種会議等を行ない、強化を図ってきたことは一定の成果はあったものの、一部形骸化しているような側面も見られ、今後も引き続き努力と工夫が必要であることを教えてくれた。また、法人及び富門華寮創立40年目の一年であったため、将来のとりわけ中長期的な方針としての障がい者事業所の施設整備に向けた大まかな方針を策定することができ、今後実現に向けて一つ一つ具体化させるべく、取り組みを行なっていく重要性が確認されることとなった。

ケアハウスサックルは利用者の平均年齢が80.6歳で在籍年数平均は4～5年となっている。特定施設入居者生活介護の指定を受け、看護師の配置が必須となっているが経営上厳しく、常勤換算で1,2人の配置しか出来ない状況は職員の負担増加と医療との連携の重要性を示唆している。入居者の心身状態の低下による怪我、骨折の発生等、緊急事態への対応力向上の重要性を痛感した一年であり、次年度以降にも引き続き取り組むべき課題となった。

安平町デイサービスセンターでは数年前より利用率向上を目的に利用開始前の「お試しデイ」を行なっているが、一般型デイサービスではその努力の成果が数字上現れてきて、平均利用率87.4%と近年にない程の高率を見ることができた。しかし、認知症対応型デイサービスでは入院やショートステイでの利用中止があり、加えて特別養護老人ホーム、認知症グループホームの入居予定者もその中に存在することから利用率の増加は達成できなかった。今後は一般型デイサービスから認知症対応型デイサービスへの移行と新規利用者の開拓が喫緊の課題となっている。

サックル介護保険相談所はケアマネージャー2人体制でケアマネジメントの専門性について考えながら業務に当たることができた。安平町の現状は高齢化率が上がる一方で国の介護認

定の適正化の下、要介護認定の厳格化が顕著となりケアマネージャーの資質向上が一層強く求められている。管理者が上位資格の「主任介護支援専門員」の資格取得を行なうなど、より適切で充実したケアマネジメントを提供しようと努めた一年であった。

安平町高齢者グループホームさかえは平成14年7月の開始から12年の歳月を経て現在まで依然厳しい経営状況が続き、サービス提供の様々な努力を行なっているものの、財政状況を改善させる兆しさも見出すことができず少なくとも平成29年度までの5年間の指定管理者の委託期間においては抜本的対策を協議する必要性があり、既に法人運営会議等で取り上げるなどしてきているところである。利用者は、退去者1名、長期入院者1名（3か月）で減収要因はあったものの、職員の努力や利用者家族、また運営推進会議委員の協力や「短期入居」の活用によって年間在籍率を96.3%の高率で終えることができた。

2. 重点方針の取り組み

1 法人組織の連携強化と活性化

評議員会、理事会、理事長と各事業所の施設長・事務長による法人運営会議を必要に応じて行ない、法人全体や各事業所の課題、方針、計画などについて話し合うなどしてきた。法人運営会議において諸課題への対策や今後の方針などより積極的に話し合い、内容を深めて評議員会、理事会へ提言を行なうなどさらに充実させていくことが必要である。利用者やその家族、役職員全体で方針など意識の共有化を図り、さらには情報提供を行なうなど組織の連携強化と活性化に取り組んできたが、今後も一層の努力が必要である。

2 今後の方向性と方針の策定

重要課題である富門華寮、第二富門華寮の将来の施設整備に関して法人運営会議で方針を定め、大まかな方向性を策定することができたことは法人及び富門華寮創立40年目のこの一年で大変重要なことであった。今後は一歩ずつ具体化するための事業の在り方や目指すべきものを各事業所、法人全体で意識の共有化を図っていくことが大切である。

3 職員の資質の向上

障がい者並びに高齢者事業所共に、日々の業務においてより良いサービス提供のための取り組みの模索や種々の打ち合せ、会議を通じた取り組みを行ってきた。さらには外部研修への参加や内部研修会の実施、自主研修や資格取得のための協力などを行ない、職員の資質向上の強化を図ってきた。3月に実施した法人内部研修会は自由参加ではあったが、平成27年度からの新会計基準移行に関する経営的側面から施設運営を考える介護、支援職員にとっても良い研修の機会を持つことができたことやまた、障がい者事業所では第二富門華寮に続き富門華寮においても町内の病院と連携し、利用者のリハビリ訓練のための理学療法士の指導を受けられる時間を持つことができるようになったことは大いにプラスとなった。また、利用者の権利擁護、虐待防止のための会議なども繰り返し行ない、関連する研修会の参加や研修報告などを行ってきたがまだまだ不十分な点も多く、今後も更なる工夫と努力が必要である。こういった種々の職員資質向上のための取り組みを様々な角度から行ない、努力を惜しまず根気よく取組んでいかなければならない。

4 施設利用者に対するサービス提供の充実と生活の質の向上

利用者は施設での集団生活といった限られた中での生活ではあるものの、その中で利用者一人一人の生活の質の向上を目指し、より多くの幸せな人生を送ることができるようその支えとして職員の利用者に対する支援に様々な角度から取り組んできた。利用者の生活のベースとなる衣食住それぞれの充実を目指すための取り組みや利用者を支える職員の権利擁護意識の強化と維持、職員の資質の向上等はすなわち利用者の生活の質の向上、充実に結びつくものであることからこれらの多方面に渡る取り組みを行ってきた。また、サービス管理責任者を中心とする利用者個々の生活組立てのための個別支援計画の作成、計画の実施、モニタリング、評価といった一連の作業を行なうことが即ち利用者に対するサービス提供の充実、生活の質の向上を図るための最も重要な作業であり、これらケース（ケア）マネジメントは行なうことができた。今後も様々な角度から取り組みを行ない、利用者へのサービス提供の充実、生活の質の向上に向けてより一層の努力が必要である。

5 法人・各事業所運営の適正化

障がい者事業所は「障がい者総合支援法」に変わっての二年目となり、富門華寮、2か所のグループホーム、第二富門華寮それぞれにおいて法令や基準等に基づいた適正な運営を行なうことを目指して事業を展開してきた。これまで取り組みが不十分だったサービス管理責任者を中心とする利用者一人一人の個別支援計画の作成、実施、評価等のケースマネジメントの手続きは、サービス管理責任者が力を発揮し、以前よりも充実させることができるようになり、今後ともさらに充実・強化を行なっていきたい。

高齢者事業所においても介護保険法やその他の法令・基準に基づき、ケアハウスサクル、安平町デイサービスセンターサクル、サクル介護保険相談所、安平町高齢者グループホームさかえの各事業所が事業を進めてきた。それぞれの事業を遂行するため、職員個々及び組織としての力をより一層発揮し、利用者への質の高いサービス提供を最重要テーマとして今後もさらに努力を積み重ねていかなければならない。

6 各事業所の財政基盤の強化及び経営の安定化

富門華寮は50名定員で年度途中に3名の利用者が死亡退所したことが大きな要因となって将来に向けた積立を行なえなかったが、第二富門華寮においては今年度も着実に剰余部分を将来のために蓄えることができた。各事業所共法令、指定基準等に基づく適正な運営を行なうことを重点に置き、さらに利用率の充足が安定した報酬の確保につながることから、また、富門華寮及び第二富門華寮は、両施設とも理念・方針としている障がいの重い真に施設を必要としている方々を積極的に受け入れることも簡単なことではない難しさも付きまとうが、施設収入の増加に結びつことは成し遂げた際の結果報酬であり、この理念・方針を基本にし、今後も運営を行なっていく。

高齢者事業所においては30名定員のケアハウスサクル、安平町デイサービスセンターサクルは一般型20名、認知症対応型10名の定員。安平町高齢者グループホームさかえは9名定員といったようにいずれも小規模事業所故に引き続きサービス提供の充実化を強化するため様々な努力と工夫を行ってきたが、収入に限られ経営状況を改善することは相変わらず

困難であった。とりわけグループホームさかえはわずか9名の入所者ということで今後の運営に関し、検討しなければならない段階に入った。

7 各関係機関との連携強化

富門華寮及び第二富門華寮、高齢者事業所共安平町健康福祉課等、教育委員会や安平町社会福祉協議会、胆振東部社会福祉施設関係、高齢者の日胆老人福祉協議会、障がい者の北海道、日胆地方会知的障がい福祉協会、各種学校関係、その他関係機関・団体との相互協力を随時行なってきたことは当然重要なことで連携強化・維持の一役を担った。また、障がい者、高齢者両事業所は、所属する地域自治会の一員として引き続いて自治会活動、地域行事、会合等に参加し、地域とのつながりを大切にしながら連携を図ってきた。

高齢者事業所は、安平町の指定管理者指定施設である安平町デイサービスセンターサクルと安平町高齢者グループホームさかえが今期5年間の指定の2年目の運営を行なうなどその間も安平町と連携しながら取り組んできた。ケアハウスサクルやサクル介護保険相談所も安平町や他の機関・団体と協力し合う中で行なうことができた。

⑧ 情報提供の充実化

法人間では、利用者やその家族、職員、役員・評議員等へのその時必要な情報提供など行なってきた。まだまだ工夫し、理解しやすい積極的な情報提供の必要を感じている。法人のホームページは限られた情報量の提供ではあるが、特に掲載内容を変更することもなく公開を行なってきたが、今後は見直しを随時行ない、より充実させていくことが必要である。必要な様々な情報を種々の機会、場面で効果的に行なっていくことがさらに求められていることも念頭に置きながら取り組んでいくことが必要である。

(2) 事業収支及び財産の状況（一般会計）

①収支の推移

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	25・26年度比較増減
事業活動収入	936,434	747,208	741,418	△ 5,790
事業活動支出	702,168	720,350	727,717	7,367
事業活動外収入	6,212	236	262	26
事業活動外支出	5,976	0	0	0
経常収支差額	234,502	27,094	13,963	△ 13,131
特別収入	40,051	0	0	0
特別支出	40,051	37	0	△ 37
特別収支差額	0	△ 37	0	37
当期活動収支差額	234,502	27,057	13,963	△ 13,094

②資産・負債の推移

単位：千円

	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	25・26年度比較増減
流動資産	307,410	268,072	278,448	10,376
固定資産	1,022,197	1,011,259	1,001,765	△ 9,494
資産合計	1,329,607	1,279,331	1,280,213	882

流動負債	100,251	45,748	44,598	△ 1,150
固定負債	85,900	84,627	89,412	4,785
負債合計	186,151	130,375	134,010	3,635
純財産	1,143,456	1,148,956	1,146,203	△ 2,753

(3) 今後対処すべき課題

- ①障がい者施設富門華寮、第二富門華寮の新体系制度での適正かつ安定した事業運営
- ②障がい者並びに高齢者施設の財政・経営基盤の強化及び事業運営のさらなる安定化
- ③利用者へのサービス提供技術の向上及び生活の質の向上
- ④施設のリスク管理体制の強化
- ⑤障がい者施設利用者の高齢化・重度化への対策
- ⑥高齢者施設利用者の加齢及び介護度の高まりに対する対策
- ⑦障がい者施設の建物・設備の老朽化への対策
- ⑧認知症高齢者グループホームさかえの安平町指定管理者指定に係る次期申請の可否決定と経営方針の明確化
- ⑨職員の資質向上と連携強化、事業目的の共有化、倫理意識の向上

II. 法人の概要及び実施する事業

1. 主たる事務所の所在地

〒059-1434 北海道勇払郡安平町早来富岡 129 番地 1

2. 事業の種別

(1) 第一種社会福祉事業

- ①障害者支援施設の経営（富門華寮、第二富門華寮）
- ②軽費老人ホームの経営（ケアハウスサックル）

(2) 第二種社会福祉事業

- ①障害福祉サービス事業の経営（あけぼのグループホーム、富岡ホーム）
- ②老人デイサービス事業サックルの受託経営
- ③認知症対応型老人共同生活援助事業（安平町認知症高齢者グループホームさかえ）の受託経営

3. 事業の種類及び名称等

名称	施設長	所在地	定員(人)
富門華寮（障害者支援施設）	米澤 洋一	安平町早来富岡	生活介護 50 入所支援 50

第二富門華寮（障害者支援施設）	五十嵐 勸	〃	生活介護 69 入所支援 60
あけぼのグループホーム（共同生活援助）	米澤 洋一	安平町早来大町	4
富岡ホーム（共同生活援助）	〃	安平町早来富岡	4
ケアハウスサックル（軽費老人ホーム）	清水 浩明	安平町早来栄町	30
安平町デイサービスセンターサックル	〃	〃	—
安平町認知症高齢者グループホームさかえ	〃	〃	9

4. 施設サービス利用者の推移

単位：人

	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	25・26年度比較増減
富門華寮	50	49	48	△ 1
第二富門華寮	58	58	59	1
〃（通所者）	9	9	8	△ 1
あけぼのグループホーム	4	3	3	0
富岡ホーム	4	4	4	0
ケアハウスサックル	29	29	30	1
デイサービスサックル	1日平均 17.1	1日平均 19.1	1日平均 18.1	△ 1.0
グループホームさかえ	9	9	9	0

5. 施設職員数の推移

単位：

人

		平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	24・25年度比較増減
富門華寮	正	16	19	21	2
	臨	19	18	16	△ 2
	計	35	37	37	0
第二富門華寮	正	25	25	26	1
	臨	21	22	21	△ 1
	計	46	47	47	0
ケアハウスサックル	正	4	4	4	0
	臨	16	15	13	△ 2
	計	20	19	17	△ 2
デイサービスサックル	正	4	4	4	0
	臨	13	12	13	1
	計	17	16	17	1
グループホームさかえ	正	1	1	1	0
	臨	7	7	7	0
	計	8	8	8	0

各年度末日現在

正：正職員 臨：非常勤、パートを含む

6. 借入金

なし

7. 補助金（施設整備・設備整備関係）

なし

8. 監査

（1）法人監事による監査

- ・平成 26. 5. 14 指導監査改善状況、利用者預かり金、事業報告書、決算
- ・平成 26. 5. 23 決算関係
- ・平成 26. 9. 4 理事会、評議員会議事録確認、資産・負債期首残高確認、預金残高照合
利用者預かり金
- ・平成 26. 9. 5 事業計画に基づく運営状況、会議開催、職員研修状況、現場視察
- ・平成 26. 12. 12 利用者預かり金、預金残高照合、会計処理（仕訳）、虐待防止取組状況
避難訓練（火災、地震、土砂災害）実施状況、各種会議（記録、内容等）
- ・平成 27. 1. 13 会計伝票、預金残高照合、利用者預かり金、会議及び支援日誌内容
富岡ホームの運営状況
- ・平成 27. 3. 18 利用者預かり金、預金残高照合、会議・内部研修開催状況、避難訓練実施
状況、新経理規程の作成

（2）北海道胆振総合振興局、その他（監査、書面審査等）

- ・平成 26. 4. 10 障害福祉サービス事業者現況報告書
(富門華寮、第二富門華寮、あけぼのグループホーム、富岡ホーム)
- ・平成 26. 4. 30 介護保険施設等現況報告書
(デイサービス、サクル介護保険相談所、ケアハウスサクル)
- ・平成 26. 6. 25 社会福祉法人現況報告書
- ・平成 26. 7. 8 苫小牧保健所特定給食施設等指導(富門華寮、第二富門華寮、サクル)
- ・平成 26. 10. 14 介護サービス情報公表制度
(デイサービス、サクル介護保険相談所、ケアハウスサクル)
- ・平成 26. 10. 15 日胆知福協オンブズマン（2名）訪問（富門華寮）
- ・平成 26. 10. 21 日胆知福協オンブズマン（2名）訪問（第二富門華寮）
- ・平成 26. 10. 31 指定障害福祉サービス事業者等集団指導
- ・平成 26. 12. 5 地域密着型サービス外部評価（さかえ）

9. 登記事項

- | | | |
|------------|--------------|-----------------------------|
| 社会福祉法人変更登記 | 平成 26. 5. 30 | 資産総額の変更（平成 26 年 3 月 31 日現在） |
| | 平成 27. 3. 31 | 理事の変更（平成 27 年 3 月 30 日重任） |

10. 理事会開催状況（定数7名）

- ・第1回（平成26. 5.29） 6名出席
- ・第2回（平成27. 3.27） 7名出席
- ・第3回（平成27. 3.27） 7名出席

11. 評議員会開催状況（定数15名）

- ・第1回（平成26. 5.29） 14名出席
- ・第2回（平成27. 3.27） 13名出席

12. 役員状況（平成27年3月31日現在）

任期：平成27. 3. 30～平成29. 3. 29

役職	氏名	住所	備考
理事長	丸子光比古	安平町早来	(兼)評議員
理事	泉田英吉	〃	〃
〃	米澤洋一	千歳市	〃 富門華寮施設長
〃	清水浩明	長沼町	〃 高齢者施設施設長
〃	吉田紘一	安平町追分	〃
〃	多田政拓	安平町早来	〃
〃	五十嵐勸	安平町早来	〃 第二富門華寮施設長
監事	菊地耀一	江別市	
〃	平田秀雄	函館市	
〃	栗田友子	安平町早来	

13. 評議員の状況（平成27年3月31日現在）

任期：平成26. 1. 29～平成28. 1. 28

氏名	住所	備考
泉田英吉	安平町早来	(兼)理事
多田政拓	〃	〃
吉田紘一	安平町追分	〃
丸子光比古	安平町早来	〃
米澤洋一	千歳市	〃
清水浩明	長沼町	〃
五十嵐勸	安平町早来	〃
畑山由起子	〃	
櫻井唯紹	〃	
椎葉浄子	〃	
實吉智子	〃	
四宮憲治	千歳市	
畠山清	安平町早来	
佐藤民江	厚真町	
富澤治英	安平町遠浅	

以上